

斉藤 芳子さん

=東水沼=



不安と緊張の中、町長や職員の方に暖かく迎えられ、1日町長を体験することができました。

職員一人ひとりと言葉を交わしながら、コミュニケーションを図り、厳しさの中にも窓口業務やその他、細かいサービスに心がけている姿は、和やかな雰囲気と働く意欲を感じました。

また、私たちがもっとも関心の高い合併問題や、今後町が取り組むべき行政課題など、お話ししていただきました。豊かな、住みよい町づくりのため、長としての責任の重さを感じました。

行政は、生活に密着した大事な機関。だからこそ、私たちの身近な問題を投げかけ、議論し、ともに町づくりに参加していく必要があり、義務ではないかと思いました。

今回、模擬議員、1日町長を通じて体験できた数々の出会いを大切に、これからは議会を傍聴したり、いろいろな地域活動に参加したりしながら、関心を深めていこうと思います。

酒井 由理さん

=東水沼=



楽しみにしていた1日町長の朝です。緊張した趣で町長室へ。町長の考えのひとつにあるストレスを感じず、ゆっくりと眠れる町にしたいというお話は、私にとっても理想である住みやすい町づくりということで、とても共感しました。

庁内の各課を案内していただき、職務内容などの説明を受けました。町長と職員の方々のコミュニケーションが雰囲気を和ませていたことで、興味深く見学させていただきました。

芳賀北小の視察では、車いす用トイレやスロープがあり、障害者に優しい学校だと思いました。校舎内のいたる所に大きな開口部が設けられており、室内にいても太陽の光を浴びることができるようになっていました。グラウンドは、水はけもよく、ホコリもたない特殊な砂で、子どもたちの健康にもよいと感じました。私にとって芳賀北小は、豊かで実りのある芳賀町を近隣にアピールできる自慢の学校です。

1日町長という貴重な体験を通して、芳賀町のことを知ることができて、本当によかったと思います。今後もいろいろな形で町民が町政を知る機会を増やしていただきたいと思います。

小林 真智子さん

=上延生=



今回、1日町長として役場内の仕事を拝見することができました。

芳賀北小では立派な建物を見学させて頂きました。学校給食も子どもたちといただき地産地消のプラン通りに地元で取れた米・野菜・果物・卵などたくさん使われていました。

また、先生方にはスクールバスの現状や各小学校で行われている禁煙対策モデル教室の授業風景など説明がありました。先生方の児童に対するいろいろな角度からの真剣な取り組みを感じ、親として安心して学校に送りだせると思いました。

町長と話をしている間に思い出した言葉がありました。英国の哲学者ジェームス・アレンの「気高い理想を抱くことです。ビジョンを見続けることです。そのビジョンを見続けたならば、あなたの世界はその上に築かれることとなります」。町長との話の中に「ビジョン」という言葉がよく出てきました。町長はもっと町をよくしたい。もっと住みやすくしたいという強い「ビジョン」があるそうです。コロナは未知の世界を抱き続け現実のものにしてきました。今回、町長の役場内での職員の方々に対するご指導にこれからの町の方向がよい方へ進んでいると感じずにはいられませんでした。

福田 タカ子さん

=祖母井=



緊張していた心も町長の笑顔に接し打ち解けてお話しすることができました。1日町長のたすきを掛け、今日のスケジュールをお聞きしてスタート。町長は登庁して最初にパソコンを開き一瞥を見て、急を要するものから能率よくお仕事を進められるということでした。その後、庁内の各課をまわり、役場のお仕事の一端を拝見することができました。

次に、芳賀工業団地内の排水処理センターを視察しました。ビデオで仕組みを見てから実際にセンター内を見学し、規模の大きさに驚かされました。処理されて水は魚が住めるほどの水質に浄化され、野元川に放流されているということで安全管理がよくなされていることが分かり安心いたしました。

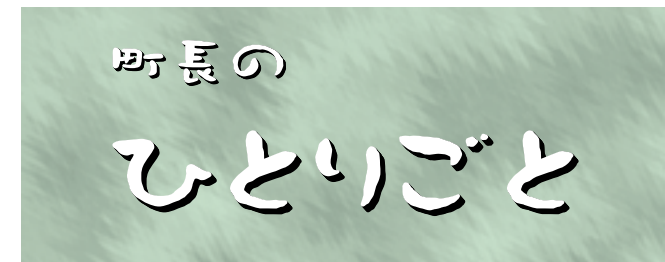
再び庁舎に戻り市町村合併の基本的な考え方などもお聞きしました。そして今、芳賀町が取り組むべき行政課題として①情報公開②生活環境整備③民生・文化面の支援④産業の振興⑤行政改革⑥教育改革をあげられました。結論として、誰もがストレスを感じず、ゆっくりと眠れる町にしたいと熱く語ってくれました。

今回の貴重な体験を通して私は、町民一人ひとりが町政への関心を高め、町づくりに積極的に参加していくことの大切さを痛感しました。「1日町長」という機会を与えてくださり感謝するとともに、芳賀町民として誇りを持って歩むことを心に決めた体験でした。



◀各課で説明を受ける1日町長の皆さん

# 1日町長を体験して



50年前の昭和29年3月、もうすぐ一年生だった私はこの字の祖母井小学校の大きな2本のケヤキのある庭で遊んでいた。校舎の中央玄関横の二宮尊徳像のあたりから職員室のぞいたりして新生の教室はどこかなと想像を巡らしていた。

祖母井町がまもなく町村合併で南高根沢村・水橋村と一緒に芳賀町が誕生することなど知る由もなかった。おぼろげな記憶にあることは春桜の頃、商工会の人たちがオート三輪やオートバイを連ねて新芳賀町をパレードしたことである。

オート三輪の横に乗せられて、でこぼこ道をしかもいまは縦横に走る道路だが当時は集落間を繋ぐぐねぐね曲がった田の中のあぜ道に砂利を敷いた程度の道を、垂れ幕や登り旗を立てながら桃太郎の凱旋のように新町内を回った。

昨年全7巻が完成した芳賀町史の近現代を開いてみた。昭和29年3月3日祖母井役場に小貝村・南高根沢村・祖母井町・水橋村・清原村の町村長、助役、正副議長、常任委員長、農業委員の代表が集まり協議会で県の試案である一町四村の合併案について話し合われた。「小貝村は産業地勢経済条件から市町村との関係優先」「清原村は村民の空気は宇都宮を向いている」と各町村の考え方が整理され残る

一町二村の協議が急進する。

そして祖母井町・南高根沢村・水橋村の各議会において「職業生活状態、地理的条件、同一水系に属する住民としての生活圏に重きを置き、合併により農業に重点をおいた芳賀北部の振興を図り、基礎強固な自治体を作ることに将来の発展を期す」とした。

新町名案には「三和町」「五行町」「美和町」「美穂町」などがあがったが芳賀郡の中心になろうとして「芳賀町」に決定したという。

昭和28年9月11日の政府閣議で町村合併推進本部を設けた時の「合併計画のうち特に考慮すべき点として関係町村間に地勢、交通、通信、産業等の相互関係が類似し、自然的及び経済的基盤の一体性が認められること」を満たした合併であり先達の識見には敬意を表したい。

芳賀郡の中心地たるとした芳賀町は真岡鉄道沿線で一帯である一市五町の中では道路交通体系・通信網の変化で宇都宮生活圏の様相が濃くなってきた。先輩方の努力で自主財源や農政面も優勢な自治体に育ってきた。次なるステージとしては県都宇都宮の東の核として更に力をつけられる状況にある。

しかし町民の想いは様々だ。数学や物理のように絶対値の解答がでない合併問題は難題である。想いを激しくぶつけ合い心に傷を残すより、議会制民主主義を遵守して情報公開・提供に努力していることに目を向けて、ルールによって事を運ぶことの大切さを知ってもらいたいものだ。

まさに情報社会ではあるが受け止められる情報は人によっていろいろである。ラジオを聞きながら米粒をといた糊を刷毛でのぼして新聞や広告などの再利用でお店で使う小物袋の袋貼りを行っている就学前の小さな自分を思い浮かべながら時代の変遷を感じている。